

# 国際光年記念展示 宇宙からの光

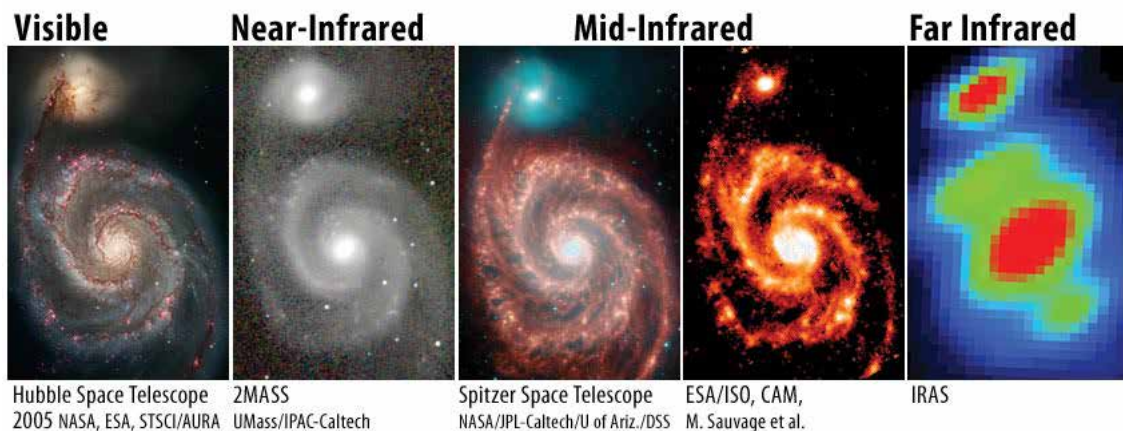
会期：6月20日（土）～7月14日（火）



国際連合とユネスコによって今年2015年は国際光年（ひかりねん）と定められています。光は私たちの身の回りにあふれています。最も身近なのは照明でしょう。昨年には青色LED発明の功績で日本人3名がノーベル物理学賞を受賞しました。最近では、インターネットなど通信の世界

でもさかんに光が利用されています。そしてもちろん、晴れた日の夜空に見えるのは星の光です。宇宙はまっくらなイメージが強いかもしれませんが、実は光にあふれているのです。国際光年2015は、これら様々な光や光技術について正しく理解し、親んでもらうことを目的としています。

そんな光には様々な種類があります。私たちが普段、光として目にする可視光以外にも、携帯電話やスマートフォンで使われる電波、テレビのリモコンで使われる赤外線、お肌の天敵・紫外線などなど…これらすべて“光（電磁波）”なのです。そして宇宙からもそれらの光がやってきています。それぞれ光を発する原理が異なるため、電波や赤外線などで宇宙を多面的に調べることで、可視光だけではわからない宇宙の姿を知ることができます。寄贈品コーナーでは、光の種類や性質、様々な光で見た宇宙の知られざる姿を、実験装置や身近な電気器具、最新の観測画像などで分かりやすく紹介します。



様々な光で見た M51 銀河（左から可視光線、近赤外線、中間赤外線、同左、遠赤外線）